

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	森のなかのギフト			
○保護者評価実施期間	2025年2月25日		～	2025年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30人	(回答者数)	22人
○従業者評価実施期間	2025年2月25日		～	2025年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎日のプログラム内容を明確化し、利用の際も曜日固定にこだわらず、ギフトの環境を活かした豊富なメニューのなかから好きなプログラムに参加することができる。また四季折々のイベントのほか、サマーキャンプや冬の旅行など、他の事業所ではなかなかできないようなことを積極的に企画、実施している。	毎月1回企画ミーティングを行い、スタッフ全員で意見を出し合っている。またスタッフの特技や興味、やりたいことを仕事に活かすことのできる環境がある(例えばキャンプ好きなスタッフが、キャンプを企画したり、趣味で山登りしているスタッフが山登りイベントを企画したり)	評価表でご家族からも指摘があったが、地域の子どもたちや自治会などと連携するようなプログラムも今後考えていきたい。
2	子どもたち同士の関係性を築き、ともに育つことをねらいとし、個別療育ではなく集団療育を実施している。またコンセプトである「あそぶ・まなぶ・感じる・つながる・成長する」を明確化にし、インテークで説明することにより、子どもたちやご家族のニーズとのミスマッチを未然に防いでいる。	ご家族との情報共有を行うため、利用時の活動記録のお渡しのほか、毎月ゆっくら通信という情報誌を作成し配布している。また個人情報の同意を得たうえで、Instagram等で活動の様子を適宜報告している。	保護者やきょうだいを対象としたプログラムを実施し、にっこりとご家族の距離を縮めていきたい。
3	保育士・介護福祉士など、さまざまな職域のスタッフが連携、協力し合い療育を行っている。離職率も低い。	児童発達支援管理責任者と現場スタッフの両方の視点をブラッシュアップさせたくて個別支援計画(当事業所では、○○くんの未来をともに創るための確認用紙と呼んでいる)を作成し、また月1回会議を開いて、計画のプレゼン、見直しを行っている。	OJT、OFF-JT、資格取得支援などにより、スタッフのキャリアアップを積極的に図ってきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	感染症マニュアルや事故防止マニュアル、BCPなど各種マニュアルは存在するが、それをしっかりとすべて理解できているかといえば、そうでもない。またスタッフによって理解の幅がある。	マニュアルの文字の多さ。必要な情報を必要ときに取得できるようなフローチャート化ができていない。	各種マニュアルの定期的な見直し、ブラッシュアップを図っていくことが必要である。
2	20代の若い世代のスタッフが少ない。	魅力のある仕事、職場としての発信が不足している。	次世代を担う若い世代にも、福祉の仕事の楽しさ、おもしろさ、やりがいを伝えていかなくてはと思う。
3			